

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 26 年 10 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

噴気活動は低調に経過しました。

* 気象庁野岳遠望カメラ障害のため、雲仙復興事務所岩床山公園監視カメラで噴気の有無を観測しています。

・地震や微動の発生状況（図 2-②③、図 3）

火山性地震の月回数は 30 回（9 月：30 回）と少ない状態で経過しました。震源は、平成新山付近の海拔下 1～2 km に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした（9 月：なし）。



図 1 雲仙岳 噴気の状況
（10 月 11 日、雲仙復興事務所岩床山監視カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 11 月分）は平成 26 年 12 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局雲仙復興事務所（長崎県経由）、九州大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

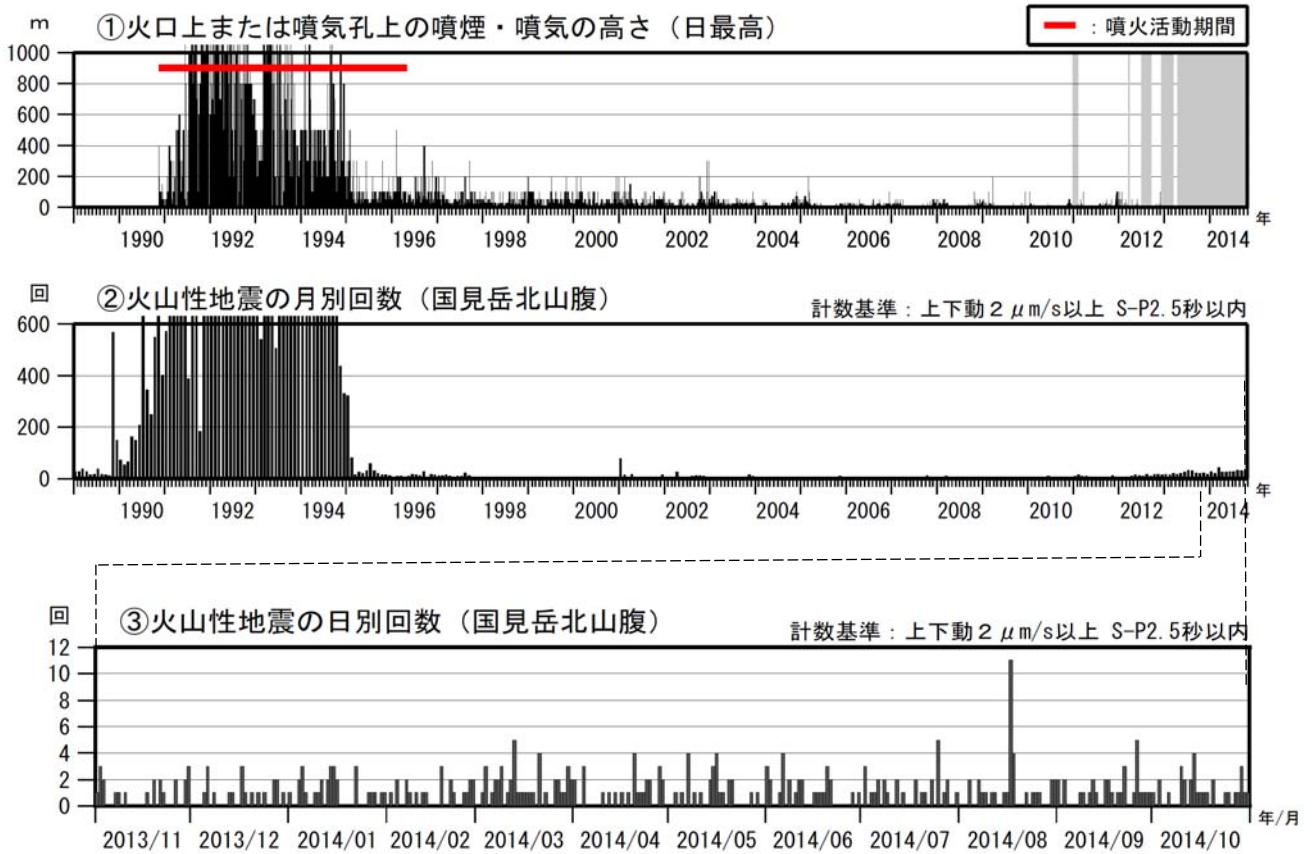


図 2 雲仙岳 火山活動経過図（1989 年 1 月～2014 年 10 月）

<10 月の状況>

火山性地震の月回数は 30 回（9 月：30 回）と少ない状態で経過しました。

火山性地震の回数については、2012 年 8 月 31 日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動 5 $\mu\text{m/s}$ 以上）で計数しています。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測を示しています。

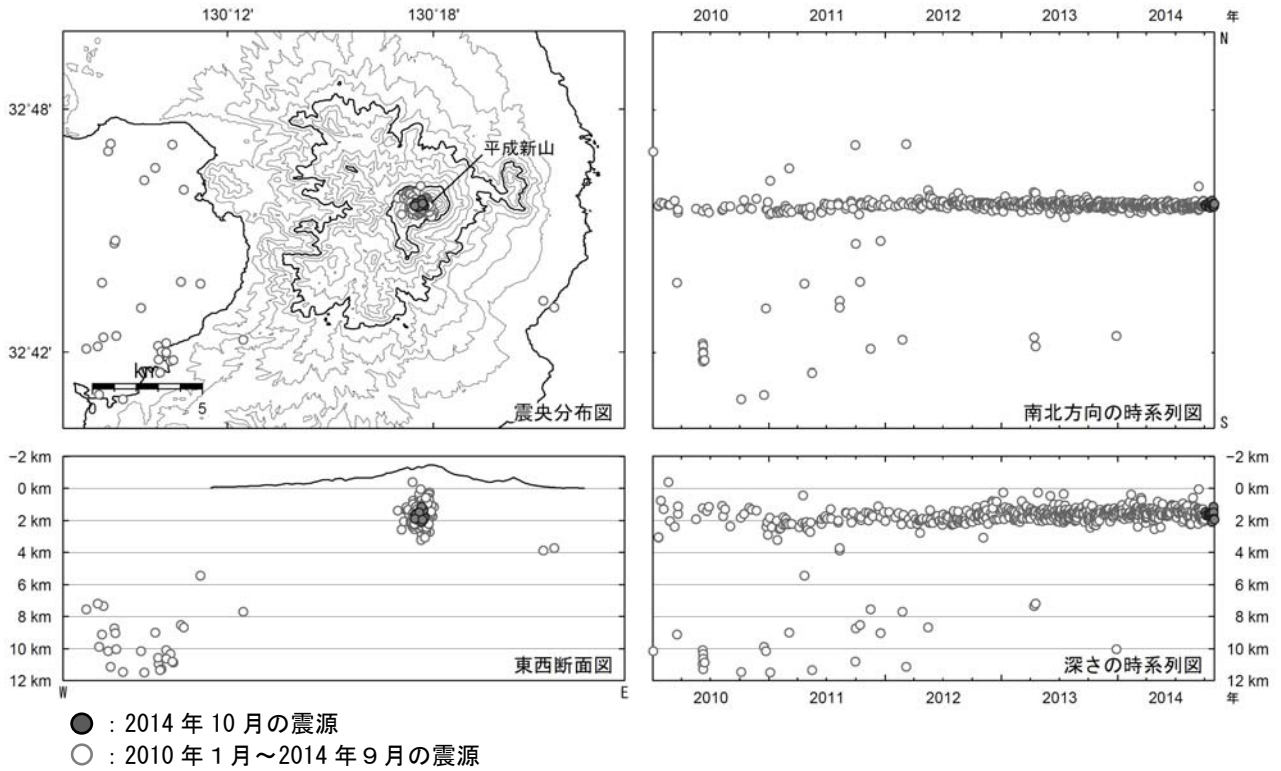


図 3 雲仙岳 震源分布図（2010 年 1 月～2014 年 10 月）

<10 月の状況>

震源は、平成新山付近の海拔下 1～2 km に分布しました。

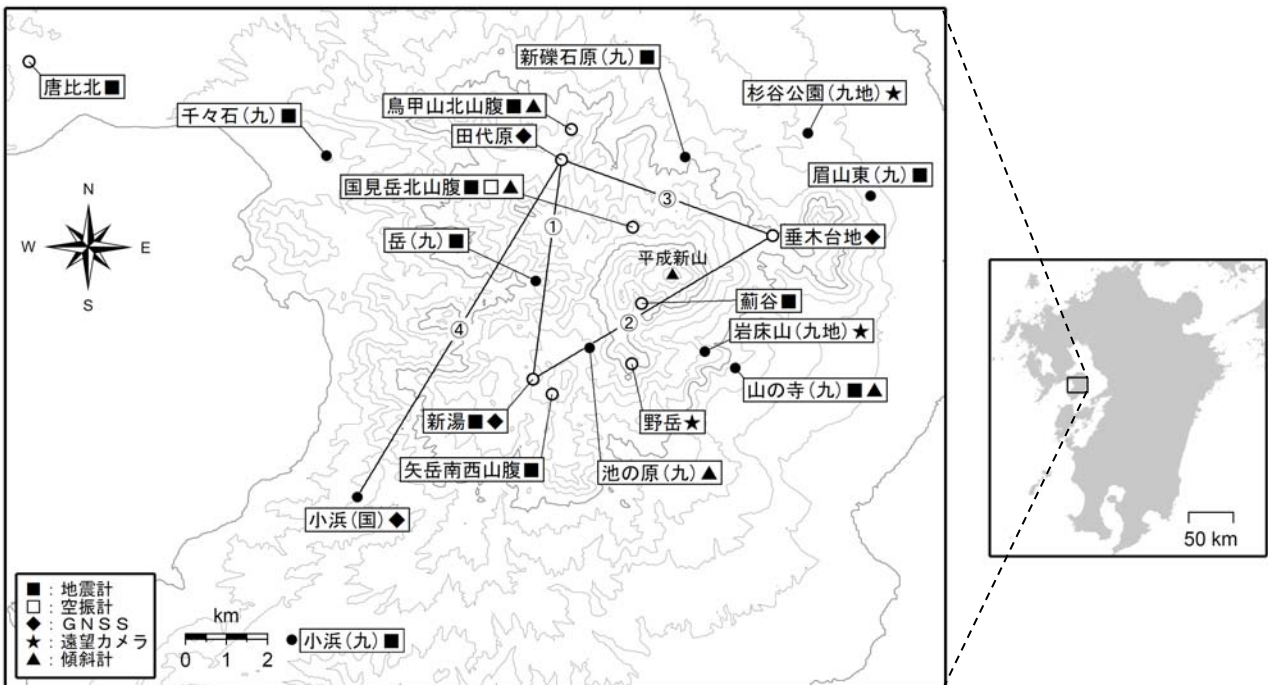


図 4 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院、(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学

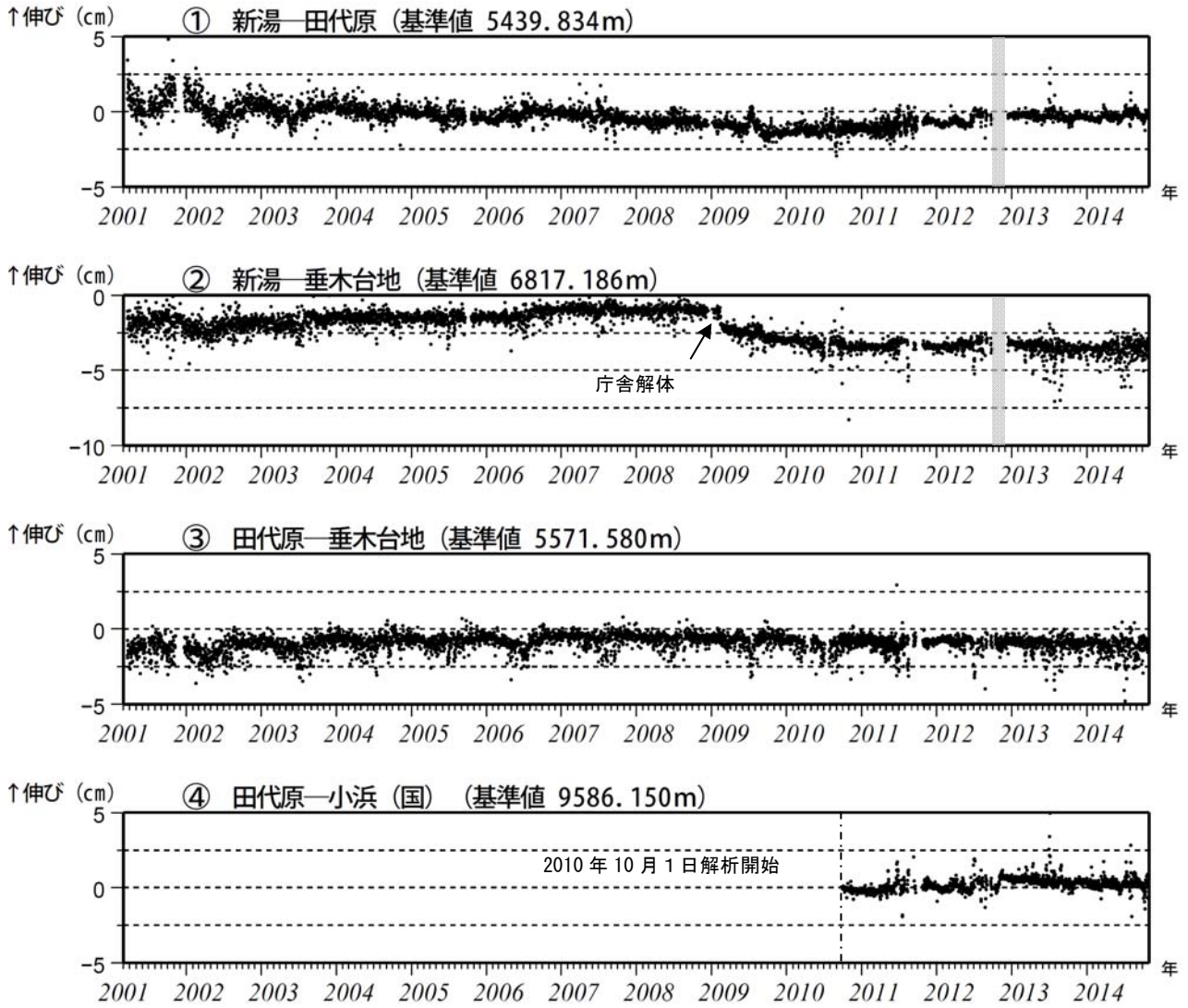


図5 雲仙岳 GNSS連続観測による基線長変化 (2001年3月～2014年10月)

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図4の①～④に対応しています。

②の基線にみられる2009年2月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。